



戸惑う患者から 賢い患者になるための道案内



⑨薬のこと…コンプライアンス、アドヒアランス、コンコーダンスについて考えてみましょう

佐久大学・看護学部長 堀内 ふき

このシリーズも九回目になりました。これまで自分の受診について、子供の受診について、そして、トピックとして、「がん」のことを考えてきました。今回は、これまでに少し触れてきましたが、薬のこと、患者さんと医療者の治療についての協力について述べてみたいと思います

薬を服用することに対し、医療者は、コンプライアンス、アドヒアランス、コンコーダンスというような言葉を使って、患者さんの対応を述べたりします。なかなか耳慣れない言葉だと思いますが、この言葉の意味を、医療者と患者さんの両方から考えてみます。

【コンプライアンス (compliance) とは…】

コンプライアンスとはなんでしょう。皆さんもよく聞く言葉だと思いますが、コンプライアンスは、語源は、コンプライ (comply) という「従う、応じる」という意味からきており、企業や法律の分野では、「法律や企業倫理に従うこと」これを医療の分野では、「処方された薬を指示に従って服用すること」というような意味で使います。

例えば、「A 患者さんは、本当にコンプライアンスが悪くて、薬の効果がでないのよね・・・」とか、「B 患者のコンプライアンスを高めるためにはどうしたらよいのか・・・」などと表現するのです。医師の指示を患者さんは遵守するということです。医療者が上から患者さんに守らせようという姿勢があります。これでは、患者さんも命令されているようで、自分の意思が尊重されていないような気持ちになり、反発する気持ちになったりするのではないのでしょうか。

そこで、この言葉ではなく、次には、アドヒアランスという言葉を使うようになりました。

【アドヒアランス (adherence) とは…】

この言葉はどんな意味を持っているのでしょうか。アドヒアランスには、患者さんが積極的に治療方針の決定に参

加し、納得してその治療を受けるという、患者主体の考え方の上に立つ言葉とされます。コンプライアンスは医療者主体の言葉だったものを、薬の作用や副作用を十分に説明されて、患者さんが主体になって服薬を行うということです。しかし、このアドヒアランスという言葉には、「固執、忠実」といった意味があり、患者主体であっても、コンプライアンスを高めるためという意味が背景にあり、十分に患者さんが主体となっていません。そこで生まれた概念がコンコーダンスです。

【コンコーダンス (Concordance) とは…】

コンコーダンスには、「一致、和合、調和」といった意味があります。服薬について患者さんの考えを尊重して話し合いを行い、情報を共有し、その上で、患者さんと医療者が病気への考え方や治療についての意見を一致させるという意味になります。

患者さんが治療に参加するのですから、これまでも述べてきましたように、まさに患者としてどうあるべきかが考えられた対応と言えましょう。医療専門職と患者さんはパートナーであり、チームの一員として患者さんの病気や治療についての経験や意見、信念を重視し、患者さんの意見が第一で、一緒に意思決定をしていくという方法です。

患者さんの中には、医療専門職に任せたいという人もいるかもしれませんが、それも、一緒に考えた上での意思決定であることが大切なのです。複数の薬を飲んでいたり回数なども一日4回などであったりすると、忙しい生活の中で忘れてしまうことも多いと思います。患者さん個々の生活状況、仕事や日中の活動状況などを一緒に考え、より良い治療効果が得られることが、患者さんにとっても良いという方向で、考えていきます。

次回は、認知症かな？と思った時の受診について述べてみたいと思います。